

図書館だより

Library Letter

第 35 号

2008.10.20



幼児教育関連資料のおすすめ

本年4月よりこども学部が開設され、図書館では、幼児教育関連の資料をたくさん購入しました。今回はその内のごく一部をご紹介します。OPACで検索したり、書架をブラウジングしながら、自分に合う資料を見つけてみてください。

■ ■ ■ ■ 図 書 ■ ■ ■ ■

『発達と障害を考える本』全12巻
内山登紀夫[ほか]監修 ミネルヴァ書房
(請求記号：378.08/H43/1~12 1F 一般書架)



このシリーズは、わかりにくい発達障害を中心に、「目に見えにくい障害を理解するための最初の一步」を目的に作られています。本来、決して安易ではない問題や内容を、視覚的な絵による工夫を凝らすことによって、簡潔な記述でも十分に理解できるように解説しています。障害のある子どもとともに生きることを目指している学生にとっても、やさしい入門の書として機能してくれるでしょう。

『新任保育者のための保育技術とマナー』
野上澄江編著 ひかりのくに
(請求記号：376.1/N93 1F 一般書架)



保育のベテラン指導者による執筆で、保育技術と保育者として恥をかかない基本マナーが学べる保育者のためのお助けブックです。様々な場面での子どもや保護者とのかわり方をイラストを多用し具体

的に述べています。また保育者として身につけたいマナーと常識を網羅(挨拶・言葉づかい・服装・電話・家庭訪問・連絡帳・対同僚や先輩・給与明細の見方等)しています。保育実習に行く前にぜひ目を通しておきたい一冊です。

『貝の子プチキュー』
茨木のり子作 山内ふじ江絵 福音館書店
(請求記号：726.5/I11 絵本コーナー)



小さな貝の子どもプチキューの冒険物語です。淋しがりやで泣き虫のプチキューは、ある日、「あるいてみよう うごいてみよう いったことのないところへ」と勇気を出して一步を踏み出します。海の中ではハマグリやタツノオトシゴなどたくさんの生き物に出会います。歩き続けてプチキューは遂に水面に出ます。空を見上げると、降るような星月夜でした。「こんなにきれいなものをみたのは はじめて」プチキューはしみじみ幸せでした。

本書は'06年に死去した詩人の茨木のり子さんが書いた唯一の絵本です。魚たちも表情豊かに描かれており、とても美しい作品です。

『新育児にかかわる人のための小児栄養学』
山口規容子, 水野清子共著 診断と治療社
(請求記号: 493.98/Y24 2F 一般書架)



現在の子どもをとりまく食環境は必ずしも好ましいものではありません。家庭における食生活は、子どもにとっての食事をする楽しさ、大切さが次第に失われてきているように思われま

す。本書は、食育基本法についての基礎知識や、実践していく上で大切なポイントや具体的な方法についても解説し、小児栄養に関する幅広い知識と実践が身に付きます。

『幼児・児童心理学』
谷田貝公昭[ほか]編 一藝社
(請求記号: 371.45/Y66 1F 一般書架)



幼児・児童心理学をはじめて学ぶ人のためのテキストとして書かれたものです。幼児・児童心理学を学ぶことは、これから幼稚園、小・中学校あるいは高校の教師を目指す

人にとっては不可欠です。本書は、保育・教育の現場で活躍されている保育者や教師をも対象として、学習および実践に役立つよう、企画・編集されています。

■ ■ ■ ■ 雑 誌 ■ ■ ■ ■

『教育と医学』 慶応義塾大学出版会 月刊



心の成長と身体の成長の両面から子どもの成長をとらえ、医療、心理、教育など様々な方面からバランスよく論文を取り上げています。また子どもに対する大人に目を向けた論文もあります。広い視野を身につけるために、目を通しておくとよい雑誌です。

『月刊保育とカリキュラム』 ひかりのくに



保育所・幼稚園での指導をサポートする雑誌です。実務者のマニュアル的雑誌ではありますが、指導内容のねらいや指導方法のポイントなどを丁寧に押さえてあるので、テキストとしても活用できます。誌面もイラストが多く読みやすい雑誌です。

『月刊クーヨン』 クレヨンハウス



家庭での育児に関する記事が中心の育児雑誌です。おもちゃ、遊び、絵本、おやつなど子どものトレンドがわかります。読者層のターゲットを幼児の親にしているので、親の気持ち、考え方を理解する一助にもなります。

『LD&ADHD』 明治図書 季刊



学習障害 (LD) や注意欠陥他動性障害 (ADHD) などの障害をもつ子どもに対し、どのような対応、支援ができるか、するべきかを考える雑誌です。ADHD などの障害の定義や特徴から症状の違い、支援の実例まで様々なケースをとりあげています。平易な文章で解りやすい論文が多いので、入門編として取り組みやすい資料です。

『発達』 ミネルヴァ書房 季刊



調査を基にした論文や報告が多く、保育や幼児教育を科学としてとらえようとしている論文誌です。子どもをとりまく環境、社会、人などに目を向けた論文も多くみられます。硬派で難しい印象はありますが、大学で保育を学ぶのなら読みこなして欲しい雑誌です。

図書館長就任のご挨拶

三 上 眞 弘



この度、図書館長を拝命いたしました。今年3月まで帝京大学医学部に勤務し、4月より帝京科学大学に変わりましたので、まだ学内の様子がよくわからず、このような大役が果たせるかどうか心配しているところです。

帝京大学医学部の時も、一時期図書委員をしていました。その時の問題は、板橋の図書館が狭いため蔵書を収容しきれなくなり処分が必要になり、それをどうするかということや、雑誌の電子化が始まりそれをどのように導入していくか、また、ちば総合医療センター（市原）や溝口病院にある図書館との連携をどうすれば良いのかなどいろいろありました。古くなった単行本のリストを作りそれを回覧して意見のない物は破棄するというようなことを何回か行いました。それまでは、古い本の蔵書があるというのが伝統のある古い良い図書館であるというような感じを持っていました。しかし、処分してみると、古くとしておくべき図書などはめったになく、特に科学的情報はどんどん新しくなるのでそのような必要性はないということがわかりました。当図書館も決して広くはないので、このようなことが必要になるのではないかと考えています。雑誌の電子化もどんどん進みこれも今後積極的に導入していくことになると思います。ただ値段が活字雑誌より高く、ただ変えればよいというわけにはいかなかったように覚えています。また雑誌が電子化されると、いちいち図書館に行かなくても済むので図書館の様子もだいぶ変わるのではないかと思います。他の図書館との連携ですが、2年後に千住キャンパスができた後のことや、帝京グループの他の図書館との連携をさらに深めるようにしていかなければならないでしょう。

学生諸君が勉強するのはただ授業に出て講義を聞くだけではすみません。特に卒業研究や更に深く、広く勉強したいときには図書館で調べるといような勉強の仕方をしなくてはなりません。そのために図書館を効率の良い、使いやすいものにしてゆくように努力していきたいと思いますので、なにかご意見があればお寄せください。

■ ■ ■ ■ ■ ■ Q & A ■ ■ ■ ■ ■ ■

Q ?いま、自分が何冊借りているのかを知りたいのですが…。

?返していない本の書名を知りたいのですが…。

?以前借りたことのある本をもう一度使いたいのですが、書名を忘れてしまいました。



A すべて、図書館ポータル「MyLibrary」を使って利用者自身で調べることができます。手順は次のとおりです。

- ①図書館ホームページで「MyLibrary」をクリックします。（学内ポータルからも「MyLibrary」にアクセスできます。）
- ②ログイン画面で、学内のPCやメールにログインするときと同じIDとパスワードを入力し、ログインします。
- ③図書館サービス「貸出・予約【確認】」をクリックします。
- ④これまでに借りた本の書名や配架場所、いま借りている本の書名や返却期日等を確認することができます。

「——なまよみの国の犬」

こども学科教授 飯島 勤



(山脈) のこと。

さてこの山国の、また奥深く、珍しい犬がいた。精悍、俊敏で、全身叢様の虎毛におおわれていた。これが、今の甲斐犬(かいいぬ)である。日本犬のなかでも、最も古くわが国にすみついた犬だとか。南アルプスのふもと芦安村や平家の落人伝説がある西山村といった地に、わずかに生き残り、人々の猟の伴をしてきたようだ。くさびがたの鋭い耳、澄んだまなざし、深くさけた口、筆のような差尾、ひきしまった脚は、犬神ともまがう姿かたち。まさに、この地の峻厳な風土が生んだ、犬といえる。

その昔、山梨に赴任した愛犬家の検事・安達太助や、甲府動物園の獣医・小林承吉らの

尽力で保護され、昭和九年に天然記念物に指定された。その後、戦時を経て絶滅の危機に瀕したが、今は愛好家も全国に広がっている。そのぶん、昔ながらの古武士然とした、風格のある犬が、少なくなったといわれる。

私もこの犬の魅力にとりつかれ、二匹も飼っている。本学もこの地に根ざし、アニマルサイエンス学科もあるのだから、学生諸君も、なんとかこの犬種に興味をもってほしい。風貌とは異なり、気質はいたって温和で、いわゆるかしこい犬なので、あまり手はかからない。

絶版だが、『甲斐犬現勢』という本に、かつての名犬たちの写真が載っている。県立図書館にはあるだろう。私ももっているのだから、よかつたらご覧にいれよう。家の前を通りかかった同好の士と犬談義に及び、その人から思いがけなく頂いた。時折この本を眺めては、ひとり悦に入っている。

※『甲斐犬現勢』(昭和四八年、甲斐犬愛護会名で発行。編集・発行者は、小林いさを、山田利器)

* * * * *

お願い

図書を借りている方で、返却がたいへん遅れている方がいます。延滞をすると延滞した日数分、貸出停止になります。他の利用者への迷惑にもなりますので、早急に返却をしてください。

臨時休館のお知らせ

10月31日(金)は蔵書点検のため、
11月8日(土)は推薦入試のため休館します。
ご了承ください。

帝京科学大学附属図書館

山梨県上野原市八ツ沢 2525

TEL 0554-63-6914

FAX 0554-63-4432

E-MAIL library@ntu.ac.jp

http://www.ntu.ac.jp/library/

発行 2008年10月20日